

第75回国民体育大会冬季大会
スケート競技会・アイスホッケー競技会

我 ら か く 戦 う

<スケート競技会・アイスホッケー競技会>

期 日 令和2年1月29日(水)～2月2日(日)

会 場 青森県八戸市、三沢市、南部町

公益財団法人 北海道スポーツ協会

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
スピードスケート	成年男子	5	総合1位・得点40点	今シーズン、ワールドカップに多くの北海道出身選手が選出され、苦しい状況ではあるが、取りこぼしを最小限に抑えたい。	中村 隼人(安平スケート協会) 石川 斗来(専修大学) 藤野 裕人(ジョイフィット) 中村 奨太(ロジネットジャパン)	中村 隼人・中村奨太…兄弟 中村 隼人：第74回国体冬季大会 500m 4位 藤野 裕人：2019ワールドカップ日本代表、第74回国体冬季大会(成年男子) 1500m 3位 中村 奨太：2018オリンピック冬季大会(平昌)、1500m 24位、チームパシュート 5位、第74回国体冬季大会(成年男子) 5000m優勝、1500m 4位
	成年女子	5	総合1位・得点35点	各種目で実力者がそろっており、上位の可能性が高いと考える。	宇佐見 鈴音(日本体育大学3年) 500m・1000m 桑原 僚巳(大東文化大学2年) 500m 林 海玖(大東文化大学1年) 1000m 吉村 優那(高崎健康福祉大学2年) 1500m 小野寺 留依(高崎健康福祉大学1年) 1500m 瀧上 つくし(高崎健康福祉大学2年) 3000m 田畑 真紀(駒沢大学附属苫小牧高等学校職員) 3000m 久保 純奈(日本体育大学1年) 2000mリレー リレーチーム	宇佐見 鈴音：ジャパンカップ第2戦・500m6位、第2戦1000m9位 桑原 僚巳：全日本学生スプリント選手権 総合3位 吉村 優那：ジャパンカップ第3戦1500m 4位 瀧上 つくし：ジャパンカップ第1戦5000m 2位・第3戦1500m 1位 第3戦3000m 1位 田畑 真紀：第74回国体体育大会1000m 6位・1500m 4位・2000R 4位
	少年男子	5	総合1位	各種目で実力者がそろっており、上位の可能性が高いと考える。	山本 悠乃(白樺学園2年) 500m 大島 颯己(白樺学園3年) 500m 野々村太陽(白樺学園3年) 1000m・1500m 時安 清貴(帯広三条1年) 1000m 竹澤 直輝(池田3年) 1500m 蟻戸 一永(白樺学園3年) 5000m 山田 和哉(池田3年) 5000m・10000m 斉藤 幸哉(帯広三条2年) 10000m リレーチーム	山本 悠乃：2020ユースオリンピック500m優勝 大島 颯己：インターハイ500m2位 野々村太陽：インターハイ1000m2位・1500m2位 蟻戸 一永：2020ユースオリンピック500m優勝、インターハイ5000m優勝 10000m3位 山田 和哉：インターハイ5000m3位・10000m2位
	少年女子	5	総合1位・得点45点	1, 2年生に中心の若いチームだが、ジュニア日本代表選手や昨年度全国中学校大会優勝者を中心に力を合わせて上位入賞を目指したいと思えます	佐々木 成果 今年度前半戦ジュニア日本代表選手 水戸 咲良 昨年度、全国中学校大会優勝者 堀川 桃香 昨年度、全国中学校大会優勝者	佐々木 成果：2年連続出場 若原 楽：2年連続出場
ショートトラック	成年男子	2	5位・4点	北海道は全国的にみてもショートトラックが普及していないので状況は厳しいが、昨年は地元釧路での国体で成年女子リレーに出場し、6位に入賞した。今年度についても成年女子リレーで失格をせずに完走することで確実に得点を獲得したい。		
	成年女子	2				
	少年男子	2	北海道は全国的にみてもショートトラックが普及していないので状況は厳しいが阿部・坂本両選手にはまずは予選通過を期待したい。			
	少年女子	2				
フィギュアスケート	成年男子	4	3位	前年度3位なので、本年も表彰台を目指す。	前年度優勝者の中村は、直近の全日本選手権では、SPはうまくまとめ11位だったが、FSで冒頭に4回転ジャンプにチャレンジするも回転不足で転倒。その後最後まで精彩を欠き16位に終わり悔しい思いをしている。国体では、前年度の優勝者として、また、自身の引退試合にもなるので、全力で演技をする。	鎌田は、インカレで11位。男子学校対抗で明治大学の優勝に貢献した
	成年女子	3	団体8位・個人10位	来年度の国体出場枠を確保するため、団体8位入賞を目指す。	土橋亜海は2回連続5回目の出場。道国体予選を2位で通過。海津あすかは国体初出場。二人とも、フリーへの進出を目指す。	
	少年女子	3	団体8位	国体初出場加藤花怜選手、2年連続出場の三善友奈選手両選手とも高校生活最後のシーズン。加藤選手は国体予選会個人成績2位で通過しジャンプと曲の表現が持ち味。三善選手はジャンプ、スピンをミスなく滑ってフリー進出を目指す		
アイスホッケー	成年男子	5	団体1位・得点40点	前回大会から半数の7名の選手を入れ替えて今大会に臨むにあたって、北海道の戦略としては、大量点で勝つのではなくしっかりと守って勝つような戦い方を考えて選手選考を行っている。選手全員、経験豊富であり、このチームで何を行うべきか理解している事が大きな強みになっている。守備はベテランDFを軸に、より動ける若手を入れることにより、攻守のとれたチームになっている。攻撃陣は運動量の多い年代を選手し攻撃から守りへと運動量重視をした事で、スピード感のあるチームになった。	川島 誠(王子製紙(株)苫小牧工場) 伊藤 優人((株)釧路厚生社) 田中 孝太((株)釧路厚生社) 田川 聖((株)釧路厚生社) 山下 拓郎(札幌市役所) 上野 澁太((一財)北海道アイスホッケー連盟) 池田 涼希(明治大学)	伊藤 優人：日本代表で活躍したGK
	少年男子	5	団体1位・得点40点	連勝記録を閉ざさず、全試合無失点での完全優勝を狙いたい。	アジアリーグで活躍した選手たちで、個人スキルが攻守共に優れた選手及び大学生でFW・DFで大学の中でもトップクラスのスキルを持っている選手	
	少年男子	5	団体1位・得点40点	連勝記録を閉ざさず、全試合無失点での完全優勝を狙いたい。	佐藤永基・GK・白樺学園高校 各年代別の代表(U-18・U-20・シニア代表)に入り国際大会の経験も豊富 今大会での活躍に期待する。	